

さっぽろ
市議団ニュース

<第3回定例会>

2019年10月8日

No. 204

日本共産党札幌市議団 事務局

tel 211-3221 / fax 218-5124

被災者に寄り添い再建の見通しが持てる対策を—— 里塚霊園に隣接する宅地復旧

吉岡ひろ子議員が質問

日本共産党の吉岡ひろ子議員は10月3日、決算特別委員会で里塚霊園に隣接する住宅地の復旧について質問しました。

吉岡議員は、この住宅地は昨年の胆振東部地震で26世帯が傾きや沈下などの被害を受け、直後の10月に住民説明会が開かれたものの2回目の説明会は10カ月後の8月28日で、「住民の不安と怒りが噴出した」と指摘。市が「被害の主たる要因は液状化ではなく宅地と霊園の高低差による地滑り」であり、「盛土工事が有効」「今ここで決定してほしい」と何度も繰り返し決定を迫る強引なやり方に、「先の見通しも持てない辛さや不安な気持ちが踏みにじられたことへの怒りだった」と強調しました。

そのうえで「住民は、霊園は液状化していたのではないかと、また地震が起きたら同じような被害が出るのではないかと疑問を持っている。この疑問や不安にどうこたえるのか」「市道10号の地盤が今でも動いているのではないかと調査の要望が出されていたが進ちよく状況はどうか」とたどしました。

桜井市街地復旧推進室長は、「次回の説明会で霊園敷地内の抑え盛土が有効であることを理解いただけるよう丁寧に説明したい」「道路が動いているという件については、測量により2週間に1度の経過観察を行っている」とのべました。また、住民からの「盛土以外の工法もいくつか示してほしい」という要望について、桜井室長は、「次回の説明会で説明していきたい」とのべました。

吉岡議員は、「住宅再建には宅地の復旧だけで数百万円から1000万円かかり、新築や改築にはさらに費用がかかる」「被災者の思いに寄り添い、再建の見通しが持てる対策にすべき」と求めました。

公園の遊具がいつの間にか撤去?! ——住民の要望 に沿った利用しやすい公園を

佐々木明美議員が質問

日本共産党の佐々木明美議員は10月3日、決算特別委員会で公園整備について質問しました。

佐々木議員は、「住宅街にある『街区公園』が一番数が多く、全体の9割を占める市民に一番身近な公園で、赤ちゃんから高齢の方まで利用する大切なコミュニティーの拠点であり、災害時は防災の役割も担っている」とのべ、整備にあたっては市民の声を聞きながらすすめていく必要があると強調。そのうえで「街区公園の遊具などの更新はどのように行われているのか」と質問しました。

斎藤みどりの推進部長は、「老朽化など安全確保の観点から更新している」が「小規模な公園については機能を絞った整備を実施しており、更新ではなく撤去される場合もある」とのべました。

佐々木議員は、「子どもが生まれたころは公園にすべり台やブランコもあったが、それが1つづなくなり鉄棒しかない、いつ補てんされるのかと待っていたら更地になってしまった」という若いお母さんの訴えを紹介し、「公園の遊具が住民に知らせることなく撤去されることはあってはならない」と指摘。「公園の遊具をどのようにとらえているのか」とたどしました。

斎藤部長は、「遊具は、遊びを通じて子どもの健やかな成長に役立つもの」と答弁。佐々木議員は、市が狭小公園(1000㎡未満)について、隣接する公園が250m以内の場合、「機能分担」を理由に「遊具を撤去」する方針であることを批判し、「住民のニーズに沿って利用しやすく魅力的な公園にすべき」と求めました。